

■情報■ ISMのメールグループからのメール

From: "Rapprochement Centre" <ism-alerts@palsolidarity.org>

Date: Mon, 17 Mar 2003 00:15:04 -0000

Subject: [ismers] Rachel Corrie Murdered by Israeli Army

ラファー：レイチェル・コリー、イスラエル軍に殺される

アメリカ合衆国ワシントン州オリンピアから来ていたレイチェル・コリーは、イスラエル軍のブルドーザーに故意に轢かれ、重傷を負っていたが、今日午後5時20分頃、ラファーのア・ナジャール病院で死亡した。

レイチェルはISMのメンバーとして7週間にわたってラファーに滞在し、殺害時には、ラファーのハイ・サラーム地区で、パレスチナ人の家と財産が破壊されるのを防ぐ活動にあっていたところだった。

レイチェルが轢かれるまで、ISMとイスラエル軍は2時間、対峙を続けていた。この間ずっと、レイチェルもほかのメンバーも、自分たちが非武装の外国人平和活動家であることを明確に示していた。

イスラエル軍は、レイチェルがブルドーザーの正面に走り出してきたままたま轢かれてしまったと主張し、レイチェルの思い出を汚そうとしている。殺害の一部始終を見ていた者たちの言では、イスラエル軍のこの主張はまったくの偽りだ。ブルドーザーがレイチェルめがけて向かってきた時、彼女はその進路に坐っていた。ブルドーザーは停まるうともよけようともしなかったので、レイチェルは、前進しつづける運転手を直接見ようと、蛍光ジャケットを着て、ブルドーザーの前に土と瓦礫をかき集めて積み上げ、その上に登った。だが、ブルドーザーは前進を続け、レイチェルは土と瓦礫の下に引きずり込まれた。レイチェルの姿が視界から消えたあとも、運転手は前進を続け、ブルドーザーは完全に彼女の体の上に乗った。運転手はブルドーザーのブレードを上げようとせず、結果、レイチェルはその下敷きになったのだ。そこでようやく運転手はバックし、7人のISMメンバーが必死にレイチェルを土の中から掘り出した。救急車がア・ナジャール病院に彼女を運んだが、レイチェルは病院で死亡した。

レイチェルは、2000年9月以来、イスラエル軍と入植者によって殺された1900人のパレスチナ人の一員となった。

詳細情報コンタクト先 (略)

マイクル ISMメディア・コーディネーター

ベイト・サフル 被占領パレスチナ

電話：+972-2-2774602

携帯：+972-67-862 439

この文章の翻訳：山田和子さん
コリーさんの殺害前後の写真が
ISMホームページに掲載されています。
<http://www.palsolidarity.org/index.html>

■情報■ ISMのメールグループからのメール

From: "ISM Media Alerts" <ism-alert@palsolidarity.org>

Date: Thu, 8 May 2003 20:51:22 +0200

Subject: [palsolidarity] New Israeli military Declaration Targets ISM

イスラエル軍、国際平和活動家たちに対する攻撃を強化 ISM追放に向けて

5月8日（木）から、被占領パレスチナのガザ地区で活動している人道機関に、イスラエル軍が作成した新しい宣言書が届くようになった。この宣言書（以下にコピーを添付）は、ガザ地区内で活動するすべての国際グループ、ガザ地区に入ろうとするすべての外国人に署名を求めるもので、外国人の死にイスラエル政府はいっさい責任を負わないという文言に加え、これに署名する者は国際連帯運動（ISM）といっさいかわりを持つことができないという特別の言及がある。ISM パレスチナの人々を守り、パレスチナの人々がイスラエル軍の占領に非暴力をもって抵抗できるようにするために、パレスチナの主導のもとに非暴力の活動を続けるグループ は、このところ、イスラエル政府とイスラエル軍の継続的な攻撃にさらされてきた。この一連の攻撃では、ISMのヴォランティアメンバーがターゲットになり、ひとりが死亡、ひとりが現在脳死状態、ひとりが重傷を負っている。今回のこの新たな宣言書も加えて、イスラエル側の攻撃は、ISMの信用を傷つけ、ISMの平和活動を妨げることに、完全に照準を合わせている。

宣言書のコピー

【イスラエル国防軍（IDF）】

ガザ地区に入るに当たっては、以下の必要事項を記入してIDFに提出すること

名 姓

国籍

パスポート番号

自宅住所

ガザで滞在する住所

訪問の目的 具体的に

滞在期間

訪問をアレンジした機関

【ガザに入る条件】

ガザに入る外国籍の方々は、IDFが、敵対行動に従事していない民間人の安全の確保に務

■情報■ ISMのメールグループからのメール

めているという点に留意しておいてください。ただし、現在の状況下では、IDFは、この地域を訪問する外国籍の方々の個人的な安全を保証することはできません。IDFは、軍事行動の結果として起こる死、負傷、所持品が損傷したりなくなったりすることに対する責任を負うことはできませんが、この地域を訪問する外国籍の方々は、以下の条件危険を最小限にするためのものす に従っていただきます。

- 1 エジプトとの国境に沿った軍事施設地域はIDFの管理下にあるテリトリーであり、外国籍の者は絶対に立ち入ってはならない。この地域は、激しい敵対行動が起こる場所で、きわめて危険であることに留意しておくよう。
- 2 任務遂行中のイスラエルの保安要員に対する干渉、妨害は、犯罪行為となる。
- 3 境界フェンス、イスラエルの入植地、イスラエルの民間人が使う側道、IDF駐屯地、これらに隣接する区域は閉鎖軍事地域であり、いかなる者も立ち入ってはならない。
- 4 外国籍の者は軍事行動の場から十分に離れているよう、強く勧告する。

宣言

私は、上に記入した項目内容に間違いがないこと、また、上記の条件を読んですべてに同意し遵守することを、宣言します。これを実行できなかった場合、逮捕や、ガザ地区ないしイスラエル国の領域からの追放という結果に至る可能性のあることを了解します。様々な危険があることを了解し、イスラエル国政府と諸機関に、軍事行動の結果として起こりうる死、負傷、所持品が損傷したりなくなったりすることに対する責任を負わせることはできないということを認めます。私はまた、いかなる形でもIDFの行動を妨害しないことを約束し、ISM（国際連帯運動）として知られている機関や、そのほか、IDFの行動を妨害することを目的としているいかなる機関とも、いっさい関係を持たないことを宣言します。

署名 日付

(山田和子訳)

「パレスチナフォーラムML」からの部分転載。